誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和７年3月１7日現在　　江戸川区立船堀小学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和８年度の目標	70.0%	70.0%
令和７年度の目標	70.0%	70.0%
令和６年度の結果	59.6%	57.9%
令和５年度の結果	66.0%	66.0%

令和６年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合		
学年	国語	算数
第６学年	54.0%	66.6%
第５学年	68.0%	71.3%
第４学年	68.6%	62.1%
第３学年	56.3%	58.7%

ともに、生きる。江戸川区

	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・高学年の理科と社会科で教科担任制を実施する。 ・若手教員校内授業研究を継続して行う。 ・自ら課題を見いだし見方・考え方を働かせて学ぶ「学習過程」を基本とする。	・習熟度に応じた算数科の指導を行う。 ・毎週水曜日をベーシックドリルデーとし個人学習カルテを活用した算数科の基礎、基本の定着を図る。 ・東京ベーシックドリルの診断テストを年３回実施し、結果を分析して指導に生かす。 ・４～６年生を対象に「よむYOMU」ワークの取組を実施し読解力・表現力のを育成を図る。	・一人１台端末を使って、日常的にミライシードを積極的に活用する。その際、えどタブルール等を周知・徹底する。 ・船堀小学校学習スタンダードの定着を徹底し、集中して学習に取り組めるようにする。 ・「江戸川っ子study week」を年間３回実施する。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・学び（個別最適・協働的）をすすめるための視覚優位の「ICTの活用」を行う。 ・特別支援学級との全教員の１日研修を行う。	・東京ベーシックドリルの診断テストのCD層へのサポートを放課後補習事業者と連携して実施する。 ・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。	・CD層へのアプローチとして、４年生以上を対象に放課後補習教室（「edoスク」）と家庭学習の連携を行う。 ・ミライシードで苦手分野の復習を実施する。
成果指標	・全国学力調査 「授業の内容はよく分かりますか」 肯定的な回答 どの教科も９０％以上 （R6　国語87．6%　算数90．1%）	・東京ベーシックドリルの診断テストCD層（７割以下）の割合目標※R６から現学年の問題を含んでいます 2年生3%以下（R7.1月3%） 3年生10%以下（R7.1月11%） 4年生15%以下（R7.1月※16%） 5年生25%以下（R7.1月※28%） 6年生30%以下（R7.1月34%）	・全国学力調査 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」 肯定的な回答 80%以上（R6　83.4%）